

留学先大学：BESIGN The Sustainable Design School 大学

氏名：篠田泰成

【はじめに】

今月は学校と語学について書きます。



【学校について①】

私の学校の授業についてまず驚いたことは、授業選択というものはなく、学校側から授業が指定されるというシステムです。仕学校から配布される Outlook アカウントにログインすると授業がスケジュールリングされた Outlook のカレンダーが見られるようになり、そのカレンダーに授業や時間や教室などが書かれています。ただし、日本のオリエンテーションのような詳しいガイダンスがあるわけではなく、重要なことでも軽く流されてしまいます。当然、プリントのような配布物があるわけでもないので、分からないなら自分で先生にメールをしたり、先輩や友達に聞く必要があります。ちなみに私の場合だと、そもそも配布された Outlook のパスワードが機能しないというトラブルがありました。

それでも、留学生には親切にしてくれる方がたくさんいますし、基本的に学年単位で同じ授業を受けることになるので、元から在学しているクラスメイトと行動を共にしていれば間違えることはまずありません。（私の場合はあまりありませんが）もしも教材を買うことがあればその Outlook でメールが来ますし、授業が変更になるときも Outlook で連絡が来ます。ですから事前に Outlook に慣れておくとスムーズにことが運ぶかもしれません。

【学校について②】

全校生徒が 100 名の中で、L1,L2,L3,M1,M2 の 5 つの学年があります。L が学部生で、M が大学院生のイメージです。1 学年につき 1 クラス（20 人程度）という仕組みですので、授業を受けるメンバーは

常に同じです。私は日本で学部生3年の前期まで修了した段階でフランスに渡りましたが、M1の学年に配属されました。M1のクラスは全員で16人おり、フランス人生徒が半分、もう半分はインド人、コロンビア人、トルコ人、日本人から構成されています。年齢も17歳から28歳までとばらばらですが、年功序列のような考えはあまりなく、年齢関係なくフレンドリーに関係作りが行われます。

【授業と言語について】

私の学校では基本的にすべて英語が使われます。講師の方はフランス人であることが多いですが、授業は英語で行われます。全員がネイティブというわけではありませんが、日本人からするとネイティブレベルの英語力を持っているのが現実です。それでも、多少のディスアドバンテージを抱えながら、前向きに授業に取り組む姿勢は周囲から好感を持たれますし、みなさん言語について手助けをしてくれます。それ以外で日本と大きく違うところは、授業形態です。日本では生徒が椅子に座ってメモを取りながら受講する形式が一般的だと思いますが、フランスでは違います。フランスの講義は朝のストレッチやダンスから始まり、講義時間よりも生徒間でワークをする時間が多い感覚です。

ここで入学して最初に受けた講義のエピソードを書きます。それは演技力を鍛えるという衝撃的な内容でした。フランスの映画俳優の方が講師として来てくださり、演技とはなにかを教えてくださいました。先生から与えられたお題にあわせて全力で演技をするのですが、なかなか癖のつよいお題である上に、慣れない英語です。デザインの勉強をしに渡仏して一発目に俳優の先生から直接演技指導を受けることになるとは思いませんでしたので正直面食らいました。この授業の目的は、デザイナーとして、相手（消費者やクライアント）の立場に憑依して物事を考える練習、プレゼンテーションでより柔軟な表現ができるようにすることとされており、授業の本質を捉えると、非常に有意義であることがわかります。日本では体験できない貴重な学びでした。

また、授業は朝の9時から17時まで一つの授業が続くことがあり、日本のような細かな時間割は存在していません。故に毎週同じ授業をくり返すということもないので、その点も日本と大きく違います。

【終わりに】

言語の壁があっても友達はできますし、授業もなんとかついていくことはできます。50%の理解だとしても周りに聞きながら、あるいはその場の空気に身を任せながらなんとかこなすことはできます。そして、自分の英語に自身を持つことです。英語ができると思い込んで生活することが行動の原動力になり、最終的に自分の成長に繋がります。

また来月の報告書を楽しみにしててください。

質問やリクエスト等あれば気軽にどうぞ！！

